

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

病院長名	錦見 尚道
453-8511	
所在地	名古屋市市中村区道下町3丁目3番地
交通案内	地下鉄東山線「中村日赤」駅下車 市バス・名鉄バス「中村保健センター南」下車

□ 病院の特徴

当院は名古屋市北西部に位置し、一日平均外来患者数約 1,400 名、病床数（許可病床数）852 床、職員数 1,800 名と、この地域の基幹病院の一つです。救命救急センター、小児医療センター、総合周産期母子医療センター、造血細胞移植センター、緩和ケアセンター、化学療法センターを運営するとともに、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患などの診療でも専門科の壁を越えた医療を実践するシステムが整備されており、活力にあふれています。どの領域においても潤沢な症例数と多数の剖検症例を有しており、急性疾患から慢性疾患まで稀少疾患を含む豊富でバラエティーに富んだ症例を経験することが可能な病院です。専攻医が思い切り腕を振るうことができるアクティブな研修環境は当院の伝統です。

□ 研修プログラムの特徴

病理専門研修プログラム

当院は地域密着型の高度急性期病院で、多彩で豊富な症例があり、多数の常勤医師が勤務する大規模病院です。病理部は豊富な常勤医師が勤務し、多数の病院病理医を育成してきた実績を有します。一般病院でありながら病理検体を使った分子病理診断を積極的に実践し、悪性腫瘍診断、コンパニオン診断、移植症例診断、感染症病理診断などで、通常の病理診断だけでなく最新の技術を用いた先進的な病理診断を目指しています。

組織診断や迅速診断に関しては受験資格要件となる症例数の 3 倍以上の症例を経験することが可能です。また、解剖症例は十分経験できる症例があり、すべての解剖に指導医が肉眼所見カンファレンス、剖検検討会、CPC で指導します。基幹施設以外にも解剖を経験できる連携病院を有効活用することにより、多彩な症例を経験することができます。

基幹施設はすべての基幹診療科があり、専門性の高い医療を各診療科で展開しているためバラエティーに富んだ疾患を経験できます。複数連携する施設ではそれぞれ特色ある診療実績を有し、病理検体も多彩です。特定の疾患に特化した、あるいは病理診断の専門性の高い地域の中核病院など、多くの病院と連携することで豊富な症例を経験できる環境が整っています。専攻医の年次や習得状況に応じてこれらの病院の中から適切な環境の病院での研修により、基幹施設では十分に経験できない領域の症例の経験を積むことが可能です。



□ 主な連携施設

名古屋大学、名古屋市立大学、愛知医科大学、愛知県がんセンター、名古屋医療センター、名古屋掖済会病院、一宮市立市民病院、小牧市民病院、土岐市立総合病院、高山赤十字病院、東濃厚生病院、中津川市民病院、名古屋セントラル病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、石巻赤十字病院

□ メッセージ

プログラム統括責任者（病理部長 藤野 雅彦）

当院は、経験豊富な多数の常勤医師が在籍し、各科とも専門性の高い医療を実践しているため、病理でも様々な症例を経験することができます。最近では、癌の組織を用いて多数の遺伝子を調べることにより、一人一人に適した癌治療を提供できるようにするゲノム医療の必要性が高まっています。こうした状況を考慮して、病理では部内で FISH や PCR、NGS を行える体制を整えており、



通常の病理組織や免疫染色に加え、分子病理診断を積極的に取り入れています。日々の研修ではそれぞれが割り振られた症例を診断していくことになりますが、毎日全症例を全員で討論することにより、多くの症例を経験することができます。臨床各科とのカンファレンスも定期的に行っており、病理診断が患者の診断、治療、予後にどう影響したか、常に確認することができます。病理解剖症例は、全例 CPC での討議を行うことにより、病理解剖が医療に果たす役割を理解し、経験を積んでいくことができます。また一定期間連携病院で研修を行うことにより、当院では十分に経験のできない症例を経験することができます。当院での研修により、専門医に必要な症例は十分経験可能であり、将来病理専攻を希望しておられる先生方の参加を歓迎致します。

□ 募集要項

・採用予定人数	1 人
・給与／月額	3 年次：487,370 円
・当直回数／月	
・当直料／回	
・その他	
・応募連絡先	担当者 教育研修管理課 電話番号 052-481-5111（内線 54145） E メール kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp